

2020 年度事業概要

世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症に対して、我が国では2020年4月及び翌年1月に緊急事態宣言が発出されるなど感染防止対策が図られてきたが、依然として先行きは不透明で収束の道筋は未だに見えてこない。本年度は、不要不急の外出自粛や飲食店等の営業時間の短縮などの感染防止対策に伴って人々の生活様式も大きく変わり経済は停滞し、これまでに誰も経験したことのない厳しい一年となった。

4月の緊急事態宣言後、競輪においても開催による感染の拡大を防止する観点から、日本選手権を含む82開催が中止を余儀なくされた。この状況を何とか打破すべく開催の再開に向けて関係団体で組織する「コロナ対策本部」を設置。感染拡大予防ガイドライン及び同対策要綱を策定し、感染拡大防止策を講じながら安心・安全な開催を確保する取り組みを実施してきた。選手の感染防止策としては、全国的な移動を避けるため地域あっせんを実施し、併せて7月からは現場における「3密」を回避するため、車立てやレース数を減じる開催枠組の変更を行った。

2020年度の売上は開催中止が相次いだ4月、5月は前年度比約47%と落込みを見せたが、6月以降体制の整った本場・場外から順次再開を果たすと、その後の売上は前年比120%前後で推移する飛躍的なアップを見せた。これは業界が促進してきた電投・インターネット投票の普及が急速に進み、特に民間サイトの顧客を中心にミッドナイト競輪、Fグレード7車立てが大きく売上を伸ばしたもので、「予想しやすい」「当たりやすい」商品が受け入れられたと推測される。無観客開催や入場制限などから不安視されていた売上も早期に回復し、前年度対比13.6%増の749,990,196,400円と7年連続で前年度を上回った。こうした中で行われた2021年度の賞金交渉は、平成28年に経産省から発出された「競輪選手賞金の基本的な考え方」の裁定に基づき全輪協と交渉を重ねてきた。その結果、着位賞金、出場手当、日当を増額することで合意に至り、第116回競輪最高会議で正式決定された。

業務関係については、感染防止策として開催枠組みが変更となり月1本あっせん者が出現したことから、開催節数の調整や施行者に対し追加開催の協力を懇願した。また7月以降、会員からも感染者及び濃厚接触者が続いて発生したため、感染状況についてコロナ対策本部へ詳細報告を行い、要請に基づき感染防止対策を行った。選手指導は、本年度も落車・失格の撲滅を図るべく適正走行の順守徹底に努めた。その他、昨年は第58条等の規則が改正されたが、同失格を始め先頭誘導員に関わる失格事故が頻発したことから、会員宛てメール等により再発防止について指導徹底を図った。

組織整備については、支部では少人数の職員が土日祝日を問わず選手の公正安全を確保するための業務に従事しており、近年モーニング及びミッドナット開催が増加したことから支部職員の負担は更に高まっている。組織機構改革検討委員会では就業規程、給与規程の改正並びに本部による勤怠管理を通じて、職員の長時間労働の是正またワーク・ライフ・バランスの向上を図ることとした。

これら諸事業については、諸会議において逐次説明し理解を求めるとともに、機関紙及び本支部間のネットワークを通じ、会員への周知啓もうに努めた。